

令和5年度 「狛江市学習状況調査（NRT）」の結果 及び 「全国学力・学習状況調査」の結果【小学校】

狛江市学習状況調査

- (1) 調査実施日
令和5年4月11日（火）
- (2) 調査の目的
 ◇ 児童の学習状況を把握し、児童の学力を把握、分析する。
 ◇ 分析結果を基に日々の授業改善を行い、児童の学力向上に資する。

(3) 調査対象、実施教科等

調査対象	実施教科	調査範囲	調査実施時間	受検者数
小学校 第5学年	国語、算数	前学年までに履修した内容	40分間、配布と回収を含め1単位時間（45分）を充てる。	592人
小学校 第6学年	国語、算数	前学年までに履修した内容	40分間、配布と回収を含め1単位時間（45分）を充てる。	608人

第5学年

「狛江市学習状況調査」第5学年の結果（大領域別集計）

大領域別集計					
部	内容	正答率	全国正答率	全国比(全国=100)	全国正答率との比較
国語	1 話すこと・聞くこと	60.9	57.5	106	▲
	2 書くこと	56.9	53.1	107	▲
	3 読むこと	63.1	57.1	111	▲
算数	1 数と計算	68.8	63.7	108	▲
	2 図形	55.7	54.9	101	▲
	3 変化と関係	69.1	64.5	107	▲
	4 データの活用	57.7	52.5	110	▲

国語の「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の全3領域で全国の正答率を上回った。特に「読むこと」の領域では全国を6%上回った。問題の内容では、「主題や構成を読み取る」（読むこと）の正答率が全国を10%上回った。

算数の「数と計算」、「図形」、「変化と関係」、「データの活用」の全4領域で全国正答率を上回った。特に「データの活用」の領域では全国を5.2%上回った。問題の内容では、「分数」（数と計算）の正答率が全国を9.1%上回った。

第6学年

「狛江市学習状況調査」第6学年の結果（大領域別集計）

大領域別集計					
部	内容	正答率	全国正答率	全国比(全国=100)	全国正答率との比較
国語	1 話すこと・聞くこと	64.2	61.7	104	▲
	2 書くこと	70.0	66.1	106	▲
	3 読むこと	65.7	63.0	104	▲
算数	1 数と計算	69.5	65.3	106	▲
	2 図形	69.5	62.9	110	▲
	3 変化と関係	63.3	56.9	111	▲
	4 データの活用	64.2	54.9	117	▲

国語の「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の全3領域で全国の正答率を上回った。特に「書くこと」の領域では全国を3.9%上回った。問題の内容では、「情報を選び構成を考えて書く」（書くこと）の正答率が全国を7.8%上回った。

算数の「数と計算」、「図形」、「変化と関係」、「データの活用」の全4領域で全国正答率を上回った。特に「データの活用」の領域では全国を9.3%上回った。問題の内容では、「平均」（データの活用）の正答率が全国を12.9%上回った。

全国学力・学習状況調査

- (1) 調査実施日
令和5年4月18日（火）
- (2) 調査の目的
 ◇ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 ◇ 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
 ◇ 取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(3) 調査対象、実施教科等

調査対象	実施教科	調査範囲	調査実施時間	受検者数
小学校 第6学年	国語、算数	調査する学年の前学年までに含まれる指導事項	45分間（準備・回収含まない）	605人

(4) 調査の内容

- ◇ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ◇ 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

第6学年

「全国学力・学習状況調査」第6学年の結果

教科	内容	狛江市正答率	全国正答率	全国比(全国=100)
国語	全体	70.0	67.2	104
	A 話すこと・聞くこと	76.9	73.5	105
	B 書くこと	28.9	26.7	108
算数	C 読むこと	72.9	71.2	102
	全体	67.0	62.5	107
	A 数と計算	70.7	67.3	105
	B 図形	53.4	48.2	111
算数	C 変化と関係	74.8	70.9	105
	D データの活用	69.8	65.5	106

国語では、全ての領域で全国の正答率を上回った。特に、「書くこと」の領域では全国の正答率を2.2%上回った。問題の内容では、「質問しながら聞き、話し手が伝えたいことの内容を捉える」（話すこと・聞くこと）が全国を4.5%上回った。一方で、「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる」（書くこと）の無解答率が14.7%であった。

算数では、全ての領域で全国の正答率を上回った。特に「図形」の領域では全国の正答率を5.2%上回った。問題の内容では、「百分率で表された割合を理解する」（変化と関係）が全国を9.2%上回った。一方で、「複数の棒グラフを比較し、違いを説明する」（データの活用）に関する無解答率が13.1%であった。

狛江市学習状況調査（NRT）と全国学力・学習状況調査（第6学年）の結果から

<国語> 「話すこと・聞くこと」の領域では、NRTにおいて「目的に応じて話の内容を捉える」問題の狛江市の正答率は全国を7%上回った。また、全国学力・学習状況調査では「質問しながら聞き、話し手が伝えたいことの内容を捉える」（話すこと・聞くこと）が全国を4.5%上回った。このことから、国語科の授業において、インタビューや話し合いなど、体験的な言語活動を積み重ねることで、具体的な場面を想像し、話し手が伝えたい内容を正確に理解することに効果があると言える。また、引き続き社会科や総合的な学習の時間等と関連させた教科等横断的な学習の充実を図ることが重要である。

<算数> 「割合、百分率」の問題において、NRTでの狛江市の正答率は全国を11.6%上回り、全国学力・学習状況調査でも9.2%上回った。習熟度別少人数指導によって、きめ細かな指導を継続したことで、一般的につまずきが多いとされる「割合、百分率」について、知識及び技能の習得に効果があったと考える。引き続き具体的な量をイメージしたり、適切に数量の関係を捉えたりする学習活動を展開し、基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、中学校の「数学」につなげていく必要がある。

令和5年度 「狛江市学習状況調査（NRT）」の結果 及び 「全国学力・学習状況調査」の結果【中学校】

狛江市学習状況調査

- (1) 調査実施日
令和5年4月11日（火）
- (2) 調査の目的
◇ 生徒の学習状況を把握し、生徒の学力を把握、分析する。
◇ 分析結果を基に日々の授業改善を行い、生徒の学力向上に資する。
- (3) 調査対象、実施教科等

調査対象	実施教科	調査範囲	調査実施時間	受検者数
第1学年	国語、数学、英語	前学年までに履修した内容	45分間、配布と回収を含め1単位時間（50分）を充てる。	416人
第2学年	国語、数学、英語			445人
第3学年	国語、数学、英語			441人

第3学年

「狛江市学習状況調査」第3学年の結果（大領域別集計）

部	内容	正答率	全国		全国正答率との比較	
			正答率	全国比(全国=100)	低い	高い
国語	1 話すこと・聞くこと	66.7	64.4	104	[Bar chart showing 104%]	
	2 書くこと	60.8	57.3	106	[Bar chart showing 106%]	
	3 読むこと	54.3	52.8	103	[Bar chart showing 103%]	

国語では、全ての領域で全国の正答率を上回った。特に「書くこと」の領域では3.5%全国を上回った。

問題の内容では、「情報を選び構成を考えて書く」「考えが伝わるよう工夫して書く」（書くこと）の正答率が全国を約5%上回った。

部	内容	正答率	全国		全国正答率との比較	
			正答率	全国比(全国=100)	低い	高い
数学	1 数と式	69.2	67.4	103	[Bar chart showing 103%]	
	2 図形	69.2	65.2	106	[Bar chart showing 106%]	
	3 関数	51.1	48.5	105	[Bar chart showing 105%]	
	4 データの活用	62.9	59.2	106	[Bar chart showing 106%]	

数学では、全ての領域で全国の正答率を上回った。特に「図形」の領域で4%、「データの活用」の領域で3.7%全国を上回った。

問題の内容では、「中学1年までの計算」（数と式）、「平行線や多角形の書くの性質」（図形）、「場合の数を基にした確立」（データの活用）の正答率が全国を約5%上回った。

部	内容	正答率	全国		全国正答率との比較	
			正答率	全国比(全国=100)	低い	高い
英語	1 聞くこと	71.5	64.6	111	[Bar chart showing 111%]	
	2 話すこと	69.7	62.1	112	[Bar chart showing 112%]	
	3 読むこと	67.2	60.6	111	[Bar chart showing 111%]	
	4 書くこと	66.8	58.1	115	[Bar chart showing 115%]	

英語では、全ての領域全国の正答率を上回った。特に「書くこと」の領域で8.7%全国を上回った。

問題の内容では、「英文を正しく読み取る」（読むこと）の正答率が12.5%全国を上回った。「考えや気落ちを正しく伝える」（話すこと）、「適切な表現を用いて英語を書く」（書くこと）は約9%全国を上回った。

全国学力・学習状況調査

- (1) 調査実施日
令和5年4月18日（火）
- (2) 調査の目的
◇ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
◇ 取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
◇ 学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 調査対象、実施教科等

調査対象	実施教科	調査範囲	調査実施時間	受検者数
中学校 第3学年	国語、数学、英語	調査する学年の前学年までに含まれる指導事項	45分間（準備・回収含まない）	436人

- (4) 調査の内容
◇ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
◇ 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

第3学年

「全国学力・学習状況調査」第3学年の結果

教科	内容	正答率	全国正答率	全国比(全国=100)
国語	全体	71.0	69.8	102
	領域 A 話すこと・聞くこと	81.6	82.2	99
	領域 B 書くこと	67.2	63.2	106
数学	領域 C 読むこと	66.9	63.7	105
	全体	56.0	51.0	110
	領域 A 数と式	66.4	63.0	105
	領域 B 図形	42.5	33.2	128
英語	領域 C 関数	54.3	51.2	106
	領域 D データの活用	54.1	48.5	111
	全体	56.0	45.6	123
	領域 A 聞くこと	68.4	58.4	117
英語	領域 B 読むこと	60.3	51.2	118
	領域 C 話すこと	18.0	12.4	145
	領域 D 書くこと	35.1	23.4	150

国語では、「書くこと」、「読むこと」の領域で全国の正答率を上回った。問題の内容では、「観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考える」（読むこと）が7.6%全国を上回った。一方で、「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える」（読むこと）の無解答率が16.5%であった。

数学では、全ての領域で全国の正答率を上回った。特に、「図形」の領域では全国の正答率を9.3%上回った。問題の内容については、「空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解している」「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明する」（図形）に関する正答率は12.6%全国を上回った。一方で、全ての領域において記述式の問題は無解答率が高かった。

英語では、全ての領域で全国の正答率を上回った。特に「書くこと」の領域の正答率全国を11.7%上回った。また、記述式の問題の正答率も高かったもの無解答率も高かった。

狛江市学習状況調査と全国学力・学習状況調査（第3学年）の結果から

- <国語> NRTの「書くこと」の領域で出題された「考えが伝わるよう工夫して書く」問題では、狛江市の正答率は6.2%全国を上回った。また、全国学力・学習状況調査の「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」問題でも、狛江市の正答率は6.2%全国を上回った。「書くこと」はどの教科においても必要な能力であり、引き続き教科等横断的に書いて表現する活動を進めていくことが求められる。
- <数学> NRTの「図形」の領域で出題された「平行線や多角形の角の性質」の問題では、狛江市の正答率は5%全国を上回った。また、全国学力・学習状況調査の図形で出題された「ある事が成り立つことを想定に基づいて証明する」問題では全国を12.6%、「空間における平面が同一直線上にない3点で決定される」問題では10.2%全国を上回った。「図形」の正答率は有意に高いと捉えることができる。今後も身の回りにある事象と関連させながら、数学的な見方・考え方を働かせて論理的に問題解決を図る学習を行う等、指導の工夫が求められる。
- <英語> NRTの「聞くこと」の領域では、狛江市の正答率は6.9%全国を上回った。また、全国学力・学習状況調査では「聞くこと」の領域では10%全国を上回り、「話すこと」の領域では5.6%全国を上回った。これは、英語でのコミュニケーションを重視した指導の工夫による結果であると推察される。授業の充実の他、ALTの活用、オンライン・スピーキング、東京グローバル・ゲートウェイ訪問等を引き続き実施し、英語でのコミュニケーション能力の更なる育成を図る必要がある。